

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：32602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02259

研究課題名(和文) 芸術的独創性と天才・異才の育成における排除と包摂の思想史研究

研究課題名(英文) A Study of the Social Inclusion and Exclusion in the Education of Original Genius

研究代表者

池亀 直子 (Ikegame, Naoko)

亜細亜大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：10359698

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代社会の能力論における排除と包摂の問題について、芸術における「独創的天才」の概念や、優生思想と病理や障害の関わりから考察した思想史研究であり、19世紀末から1940年代頃までのイギリスと日本における優生思想、教育思想、芸術思想を分析対象とする。啓蒙活動による「優等種」の選別と継承を目指す「積極的優生学」と、避妊や断種による産児調節・制限で「劣等種」の断絶を主張する「消極的優生学」における芸術や学問の「天才」の扱いを分析して貧困層や遺伝疾患、障害が「劣等種」として排除の対象とされる傾向を明らかにし、人間の能力の多様な評価と社会的包摂に向けた今日的展望について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義、社会的意義は、第一に近代社会の業績主義的な能力評価に潜在する排除の傾向を明らかにしたこと、第二に「天才」や「障害」など、これまで限定的に評価されてきた能力に対する多角的な評価軸の構築を試み、障害者を含む個人の多様な能力の育成に向けた今日的展望を示していることである。人間の優れた能力への憧憬や称賛が、人間存在の選別という優生思想に展開し、特定の人々を排除することの正当化に与しうる危険性を明らかにしたうえで、異なる視点を提示しより多様な社会的包摂の可能性を探っていくことに今日的な意義がある。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of research is the survey of the problem of social exclusion in the assessment of abilities of the modern meritocracy. From comparing the notion of genius in Britain with that in Japan in context of the eugenics, we clarified the case of using artistic and academic genius as a concrete example of superior species in the early stage of the positive eugenics. We also found the Japanese tendency of the negative eugenic assessment of children's abilities and disabilities in articles of the "Yusei-gaku magazine" and the others that published during prewar period. The conclusion is that the diversity of assessment criteria is required for the social inclusion of people with various abilities including disabilities.

研究分野：教育思想史

キーワード：天才 独創性 能力評価 優生学 障害 芸術教育 社会的排除 社会的包摂

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

近代以降の芸術において「天才」や「独創性」が特別な意味を持ったことは美学や芸術史の先行研究から明らかである。芸術の「天才」には先人の作品を理解し新たな価値を付与する「創意の才能」と、発想や技法を他者の模倣によらない「独創的才能」があり、二種の天才論は各々新古典主義とロマン主義の思想的影響の下に展開する。さらに 18 世紀以降は「独創性」とその所産が近代個人主義の核をなす所有権思想と結びつき、模倣を排除し作者の権利を保護するための著作権とオーサーシップが確立されていく。今日、芸術における「独創性」とは、作品と制作者を結びつけてその価値と評価を決定づけると同時に、法的権利の範囲にとどまらず、他者と異なる才能すなわち「天才・異才」の所有を根拠として、ある個人を周囲から差別化・個性化する概念であるといえる。

こうした能力と個性による人間の差別化と分類は、骨相学や指紋法に見るように、人間の能力や特徴の科学的計測という近代社会に特有の「能力人間学」的傾向である。その影響は 20 世紀以降の優生学や遺伝学、心理学、教育学の議論にも見られるのだが、注目すべきはこれらの能力論や人間論がしばしば芸術的才能に言及する点である。

本研究は上記の研究背景をもとに、特別な才能を有する個人が脚光を浴び差別化されていく社会的動向と、能力の根源を個人の身体や遺伝子に求めていく能力人間学的な展開が、「芸術的才能」や「独創性」をキーワードとして思想史上の重なりを見せることに着目し、「独創性」概念に法律上の権利の制限、すなわち著作権に止まらぬ能力主義の排他性が潜在する可能性を検討したうえで、障害をめぐる能力評価の今日的課題や、芸術における「天才・異才」の育成の展望を明らかにすることを試みたものである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、芸術における「独創性」の概念と、人間の能力を同時代の科学により解明しようとした近代の能力論、人間論について思想的アプローチから再検討を行い、「独創性」に潜在する人間の孤立や排除といった今日的課題を明らかにして、現代の芸術における個人と社会の関係、および「天才・異才」という芸術的才能、独創的才能の育成について考えることである。19-20 世紀のイギリスと日本における芸術思想を主たる分析の対象とし、期間中に 1. 芸術における「独創性」と優生学、遺伝学における能力論や人間論の思想史、2. 「独創性」と芸術分野の「天才・異才」の育成の思想史、3. 「独創性」に潜在する社会的排除と、障害者を含む芸術的才能、独創的才能の育成と社会的包摂に関する今後の展望を明らかにする。

## 3. 研究の方法

研究代表者 1 名による思想史研究とし、期間中の 3 年間に 1. イギリス 19-20 世紀の優生学、遺伝学における芸術的才能の位置づけ、2. 芸術教育における「天才・異才」の育成と「独創性」の思想史、3. 日本における天才論と「独創性」「個性」や「障害」をめぐる言説の検討を行った。1 については、優生学に見られる芸術的才能に関する記述を同時代の思想的背景から分析して後世への影響を明らかにすることから、2 については、19 世紀に設立が計画された天才児育成学校の事例と「独創性」や天才論との関連、および芸術論・人口論の優生学への影響を明らかにすることから、3 については、イギリスの優生学運動が日本の芸術思想および医学・教育分野の人間論、能力論に与えた影響を分析した。

#### 4 . 研究成果

研究1年目にあたる2017年度は、F.ゴルトン(1822-1911)の『遺伝的天才』をはじめとする関連分野の先行研究を整理し、初期の優生学、特に結婚と出産の道徳的統制によって優等種の保存を目指す「積極的優生学」において、優等種の事例として幅広い分野の芸術的才能、独創的天才が取り上げられていることを明らかにした。この傾向が20世紀初頭の優生思想啓蒙運動においても貫かれているのではないかと仮説を立ててイギリスに渡航し、イギリスの優生学運動に関する資料収集を行なった(2017年11-12月)。この資料収集では、ロンドンのウェルカム・ライブラリー(旧ゴルトン研究所)に所蔵される初期のイギリス優生学教育協会および1930年代のイギリス優生学協会の関連資料のほか、すでに入手していたH.H.エリス(1859-1939)の『英国における天才の研究』に加えその周辺の日本国内では知られていない関連資料、さらにEmily Stanbackの障害学研究(2016)をはじめ19-20世紀にかけての障害と芸術をめぐる最新の研究動向についての文献情報など、予想以上の成果を得た。

研究2年目にあたる2018年度は、特別支援学校における芸術教育の実態と障害児の芸術をめぐる進路選択に関する教職員アンケートの分析結果を論文として公開した(2018年11月)。この調査は終了した科学研究費基盤研究C「産業社会における天才、狂気、障害と芸術的才能をめぐる優生思想の比較思想史研究」のうち、調査対象の都合で実施が最終年度となったために成果が未発表であった調査結果をもとに、継続研究である本研究に連なる問題意識と今後の研究の展望をまとめたものである。

また、前年度に収集した初期のイギリス優生学教育協会および1930年代のイギリス優生学協会の関連資料の分析をすすめ、芸術家列伝や女性教育、子どもの教育に関する文献の記述と照合してイギリスにおける芸術的才能の位置づけや優生学との関連およびマルサス主義・新マルサス主義とロマン派の芸術思想の関連を探った。さらに優生学運動の日本的受容、日本の学校教育における「天才・異才」、「独創性」、「個性」をめぐる言説についても資料収集を行い、明治・大正・昭和期の優生学を扱った雑誌、特に『優生学』の記事とその寄稿者の関連著作の分析と合わせて、亜細亜大学総合学術文化学会にて「芸術的才能と優生思想-イギリス優生学教育協会および日本における展開-」のタイトルで報告を行った(2019年3月22日 亜細亜大学)。

研究の最終年度にあたる2019年度は、2018年度に行った学会報告の要旨論文を公開し(2019年7月)、さらに研究の取りまとめに向け、亜細亜大学国際関係研究所にて「近代の人間形成論における能力観 -障害と芸術をめぐる議論を中心に-」のタイトルで研究報告を行った(2019年7月4日 亜細亜大学)。また、イギリスに渡航しT.ウェッジウッド(1771-1805)の天才教育論および障害に関する思想についての資料収集、「天才・異才」の育成と優生学に関する資料収集を行った(2019年8月)。写真技術の先駆者として知られるT.ウェッジウッドはS.T. コールリッジ(1772-1834)の資金援助を父の陶芸家ジョサイア・ウェッジウッド(1730-1795)に取り付けた人物であるが、芸術振興のために「Nursery of Genius」という天才児養成学校の設立を構想し、コールリッジやW.ワーズワース(1770-1850)らロマン派詩人にその講師を依頼したことが先行研究で判明している。この学校の計画は途中で頓挫したうえ、T.ウェッジウッドの早世もあってあまり知られていない事実であるが、未出版の草稿に思想の詳細を読み取ることができるのではないかと推測のもとにストーク・オン・トレントのウェッジウッド・ミュージアムに収蔵される著作の草稿、日記、手紙、構想メモなどの膨大な貴重資料を撮影した。資料の解読を進めるうち、T.

ウェッジウッドの思想に18世紀以降の天才や想像力をめぐる芸術論や観念連合論の影響が見られること、またT.ウェッジウッドがW.ゴドウィン(1756-1836)とともにコールリッジの政治思想、宗教思想と想像力論に影響を及ぼした可能性が明らかになってきた。コールリッジは人口論で知られるT.R.マルサス(1766-1834)の思想に反論を残しており、また産児調整による人口抑制という新マルサス主義によって優生学の理論的根拠を提供したJ.S.ミル(1806-1873)への影響が指摘されていることから、ウェッジウッドの未出版資料の入手には大きな学術的価値があり、今後データ化および内容の詳細分析が必要であると考えられる。

3年間の研究の統合としては、新型コロナウイルス拡大の影響により一部の作業が遅れているが、今後2019年度に公開した要旨論文をもとにイギリス優生学協会における芸術的才能の位置づけおよび日本の学校教育における「天才・異才」および「障害児」のとらえ方と、それに対する優生学の影響に関する論文の公開、また優生学・優生思想の基盤となった19世紀から20世紀にかけてのイギリスの人口調整論と教育思想の関係についてマルサス、コールリッジ、ミルの思想から考察する論文の公開を予定している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 池亀直子	4. 巻 35
2. 論文標題 芸術的才能と優生思想 イギリス優生学教育協会および日本における展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 亜細亜大学学術文化紀要	6. 最初と最後の頁 156, 158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池亀直子	4. 巻 第6号
2. 論文標題 芸術を通じた知的障害児の社会的包摂におけるニーズ及び障壁の検討 特別支援学校教職員アンケート報告から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 亜細亜大学課程教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池亀直子	4. 巻 13
2. 論文標題 芸術表現を媒介とした知的障害児の生活環境の理解	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 こども環境学研究	6. 最初と最後の頁 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 池亀直子
2. 発表標題 芸術的才能と優生思想 イギリス優生学教育協会および日本における展開
3. 学会等名 亜細亜大学総合学術文化学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池亀直子
2. 発表標題 芸術表現を媒介とした知的障害児の生活環境の理解 大学生と特別支援学校中学部による交流から
3. 学会等名 こども環境学会2017年大会（北海道文教大学）（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考